

# 第3学年英語科学習指導案

日 時 平成30年11月6日(火)

学 級 3年1組

男子17名 女子14名 計31名

指導者 畠山 華枝

## 1 単元名

教材名 PROGRAM7 What Is the Most Important Thing to You?

## 2 単元でつきたい力

学習指導要領第2節「読むこと」の目標には、「社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。」とある。この目標の中で、「社会的な話題」に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動を示している。また、こうした文章を読んだ後に、読み取った内容についての賛否や感想、意見やその理由などを述べる活動についても示している。

このことを受けて本単元では、生徒に身につけさせたい力を次のように考えた。特に(1)と(2)の項目内容について力をつけたい。

- (1) 社会的な話題について読み、その感想を述べたり、自分の意見を書いたりすることができる。
- (2) 社会的な話題について読み、要点を捉え、理解することができる。
- (3) 関係代名詞(主格)を用いた表現方法を理解し、人や物について説明できる。
- (4) 進んで授業に参加し、積極的に表現活動やペア活動に取り組む。

## 3 単元の指導にあたって

### (1) 生徒観

本学級の生徒は、積極的な発言は多くはないが、英語を使う活動に意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、中には基本的な語彙や文法事項に関する理解が十分と言えない生徒も見られる。学力差が大きく、英語を得意とする生徒と苦手意識をもっている生徒と二極化しているため、それぞれの生徒にふさわしい目標と自己決定の場を与えながら指導にあたりたい。昨年度10月に実施した県学力状況調査の結果を見ると、「岩手県の場所や事象について英文で書くことができる(県比+25.8)」、「15語以上で内容につながりのある英文を書くことができる(県比+20.3)」などと表現する能力(県比+9.5)を得意としている生徒が多い一方で、「言語の使用場面・働きを理解し、正しい会話文を完成させることができる(県比較-6.1)」、領域別では「聞くこと」が県比-5.1であった。昨年度から、単元のゴールとして自分の考えや意見を英語で書く活動に多く取り組んできたため、まとまりのある英文を書くことへの抵抗を感じる生徒はそれほど多くない。その一方で、「一番身に付けたい英語の力は何か」という質問に対し、最も多かった回答は「話す力」で、その次に「読む力」であった。本単元では、必要な情報を読み取り、それを発信することを重点に進めていきたい。

### (2) 教材観

本単元は、本当に意味のある国際協力をめざして、世界中でボランティア活動を行って途上国を支援し、また途上国のために働く意欲のある人材育成への取組を続ける国際協力師、山本敏晴さんの活動を題材としている。そのうち、特に山本さんが取り組んでいる「お絵描きイベント」を通して、アフリカや南太平洋の途上国の現実を見ると同時に、自分の国に夢や希望を持って生きる子どもたちの描いた絵に込められた力強いメッセージを通して、本当の国際協力とは何か、また私たち1人ひとりに何ができるのかを考えさせることができる教材である。初出となる言語材料は、主格の関係代名詞 **who・which・that** である。複文や後置修飾を伴う文法事項となっており、生徒にとって難易度の高いものと思われる。しかし、関係代名詞を用いた表現を習得することで、これまでどのように英語で表現したらよいか分からなかったことを説明できるようになり、表現の幅を広げることができる。授業では、写真やイラストなどの視覚教材を用いて、イメージをもって表現できるようにしたい。また、パターンプラクティスや **picture describing** を通して実際の言語の使用場面を意識させ、自己表現につなげることで定着を図りたい。

### (3) 指導観

初出となる言語材料「関係代名詞（主格）」は生徒にとって難易度の高いものと思われるため、定着させるために帯活動で反復練習を重ねて定着を図る。「単元のゴールは、「山本さんについての新聞記事を作成する」と設定する。本文読解の際には、概要理解と同時に retelling 活動を行い、単元のゴールに向けて山本さんに関することやその活動についてなど、説明できるように練習する時間を多くとりたい。その際、一斉読みやペアでの音読練習、翻訳読みや Read and Look-up など多様な音読活動を通して「読むこと」から「話すこと」へつなげ慣れさせたい。その上で、話せるようになったことを「書くこと」につなげ、新聞記事で表現できるよう毎時の積み重ねを大切にしていきたい。また、国際協力や国際理解について、自分事として捉えられるよう、「自分にとって大切なもの」の絵を本文読解導入時と本文読み取り後に簡単に書かせ、他国の子どもたちと自分たちの考え方を比較したり、単元の学習を通しての考えの変容等に気付かせたりしたい。

### 4 単元の指導目標

- (1) 途上国が直面する状況を知り、その感想を述べたり、自分にとって最も大切なことを英語で書いたりする。
- (2) 山本さんが行うボランティア活動のねらいや途上国が直面している状況を理解する。
- (3) 関係代名詞（主格）を用いた表現方法を理解する。
- (4) 進んで授業に参加し、積極的に表現活動やペア活動に取り組む。

### 5 単元の評価規準（全7時間）

ア.コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ.外国語表現の能力	ウ.外国語理解の能力	エ.言語や文化について知識・理解
①進んで授業に参加し、積極的に表現活動やペア活動に取り組んでいる。	①関係代名詞（主格）を用いて、人やものについて説明することができる。 ③途上国が直面する状況を知り、その感想を述べたり、自分にとって最も大切なことを英語で書いたり発表したりできる。	①本文の概要を理解することができる。 ②山本さんのボランティア活動のねらいや思いを理解することができる。 ③途上国の状況やその国に住む子どもたちの思いを読み取ることができる。	①関係代名詞（主格）を用いた表現方法を理解している。

### 6 単元の指導計画（5／8）

	学習活動	評価規準
第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元の目標・学習内容を把握し、見通しをもつ。</li> <li>・関係代名詞（主格）の who を用いた文構造・意味・用法を理解する。</li> <li>・関係代名詞（主格）の who を用いて、「自分がなりたい人（職業）」について説明する英文を書く。</li> </ul>	イ ① エ ①
第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞（主格）の which を用いた文構造・意味・用法を理解する。</li> <li>・関係代名詞（主格）の which を用いて、「(自分が持っている)もの」について説明する英文を書く。</li> </ul>	イ ① エ ①
第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞（主格）の that を用いた文構造・意味・用法を理解する。</li> <li>・関係代名詞（主格）の that を用いて、「(自分がよく知っている)人やもの」について説明する英文を書く。</li> </ul>	イ ① エ ①
第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって一番大切なものの絵を簡単に描く。</li> <li>・本文の概要を理解する。</li> <li>・山本さんについてキーワードをもとに説明 (retelling) する。</li> <li>・山本さんのボランティア活動のねらいや思いについて考える。</li> </ul>	ウ ①、②

第5時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文の概要を理解する。</li> <li>南太平洋のツバルとルーマニアの子どもたちの描いた絵について理解し、説明 (retelling) する。</li> <li>途上国の子どもたちにとって一番大切なものと自分たちにとって一番大切なものについて比較する。</li> </ul>	ウ ①、③
第6時	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文の概要を理解する。</li> <li>「お絵かきイベント」を通して何ができるのか理解する。</li> <li>本文を読み通して、自分にとって一番大切なものは何か考える。</li> </ul>	ウ ①、②
第7時	<ul style="list-style-type: none"> <li>山本さんについての新聞記事 (途上国が直面する状況について感想や、自分にとって最も大切なものについての内容を含む) を英語で書くことができる。</li> </ul>	ア ① イ ②
第8時	<ul style="list-style-type: none"> <li>山本さんについての新聞記事を読み合い、発表する</li> </ul>	ア ① イ ②

## 7 本時の指導

### (1) 本時の目標

○南太平洋のツバルとルーマニアの子どもたちの描いた絵に対する思いを理解することができる。

### (2) 研究主題とのかかわり

研究主題の「分かる・できる」実感を持たせる指導の在り方に関わり、単元のゴールや本時のゴール等を見通して、スモールステップで学習を進めていけるよう活動を設定したい。また、生徒の実態として、得意不得意が二極化していることから、自らレベルを選んで学習活動に取り組むことで達成感を感じさせたい。副題の～主体的・対話的で深い学び合いをめざして～に関わり、途上国の子どもたちと自分たちの考えを比較したり、友人と意見交流し考えの幅を広げたりすることで、学習内容を深める学びとなるようにしていきたい。

### (3) 本時の評価規準

観点	評価規準	評価の方法
ウ、外国語理解の能力	・本文の概要を理解する。	・ワークシート
	・途上国の状況やその国に住む子どもたちの思いを読み取ることができる。	・観察 ・ワークシート

8 本時の展開

段階	学習活動	○指導上の留意点 ●評価
導入 8 min	<p>1 Greeting</p> <p>2 Review</p> <p>①関係代名詞の用法を復習する。</p> <p>②前時の本文を音読後、口頭でQAを行う。</p> <p>T: When Mr.Yamamoto was in elementary school, which country did he go ?</p> <p>S: Africa.</p> <p>T: Was he a teacher ?</p> <p>S: No, he was a doctor. など</p> <p>3 Oral Introduction</p> <p>When Mr.Yamamoto visits developing countries, he always does one thing. What does he do? Can you guess? …</p> <p>4 Today's Goal</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>途上国の子どもたちがどんな思いで絵を描いたか伝えよう。</p> </div> <p>5 Today's Menu</p>	<p>○英語学習に取り組める雰囲気を作る。</p> <p>○前時の学習プリントをヒントとするよう促す。</p> <p>○簡単なやりとりを交えながら行う。</p> <p>○本時の学習の流れを確認し、見通しをもって主体的に取り組めるようにする。</p>
展開 32 min	<p>6 New words</p> <p>7 Reading</p> <p>(1) 教師の音声が続いて、教科書を読む。</p> <p>(2) ペアで読み練習を行う。</p> <p>(3) 読み取る視点を与え、個人で教科書を音読し、内容を理解する。</p> <p>①どんな絵なのか説明する表現</p> <p>②登場人物のプロフィール</p> <p>③途上国の情勢 等</p> <p>(4) リテリングの準備をする。</p> <p>Please draw a picture which shows the most important thing to you. Mr.Yamamoto always … Here is a picture drawn by _____, …</p> <p>8 Retelling</p> <p>・キーワードプリントや写真を用いて、ペアにRetellingを行う。</p>	<p>○ペアでの学び合いの場としたい。</p> <p>○単純な音読にならないよう読み取りのポイントを示し、内容を考えながら読み取れるようにする。</p> <p>○マルアオ、ミハエラそれぞれ役割分担し、リテリングに必要な部分を読み取り、リテリングの準備をする。</p> <p>○キーワードプリントはレベル別のものを用意し、個々で選択して取り組めるようにする。書かせることはしない。</p>
終末 10 min	<p>9 振り返り</p> <p>・途上国の子どもたちがなぜその絵を描いたのか思いを記入させる。</p> <p>10 宿題と次時の確認</p>	<p>●途上国の状況やその国に住む子どもたちの思いを読み取ることができる。</p> <p>○一番大切なものについて途上国の子どもたちと自分達が考えたものに触れ、比較し、相違点や共通点に気付くきっかけとしたい。</p> <p>○次の内容確認と家庭学習の内容を知る。</p>